



# ミッションクリティカルなシステムをクラウド環境に移行するには

～業務系基幹システムをリフォームする～

2019.8.6

TIS株式会社

サービス事業統括本部  
エンタープライズ営業企画ユニット  
野口 完司





I'm a Mover.

## TISのご紹介

# TISインテックグループについて

TISインテックグループはお客様のIT関連業務をあらゆる面から支援する総合IT企業集団です。さまざまな分野に事業展開するグループ企業群は圧倒的な動員力と多様な人材によりお客様のニーズに幅広くお応えいたします。

名 称 TISインテックグループ

グループ会社数 連結子会社40社及び  
持分法適用関連会社67社

資 本 金 100億円

グループ従業員数 19,483名(2019年3月31日現在)

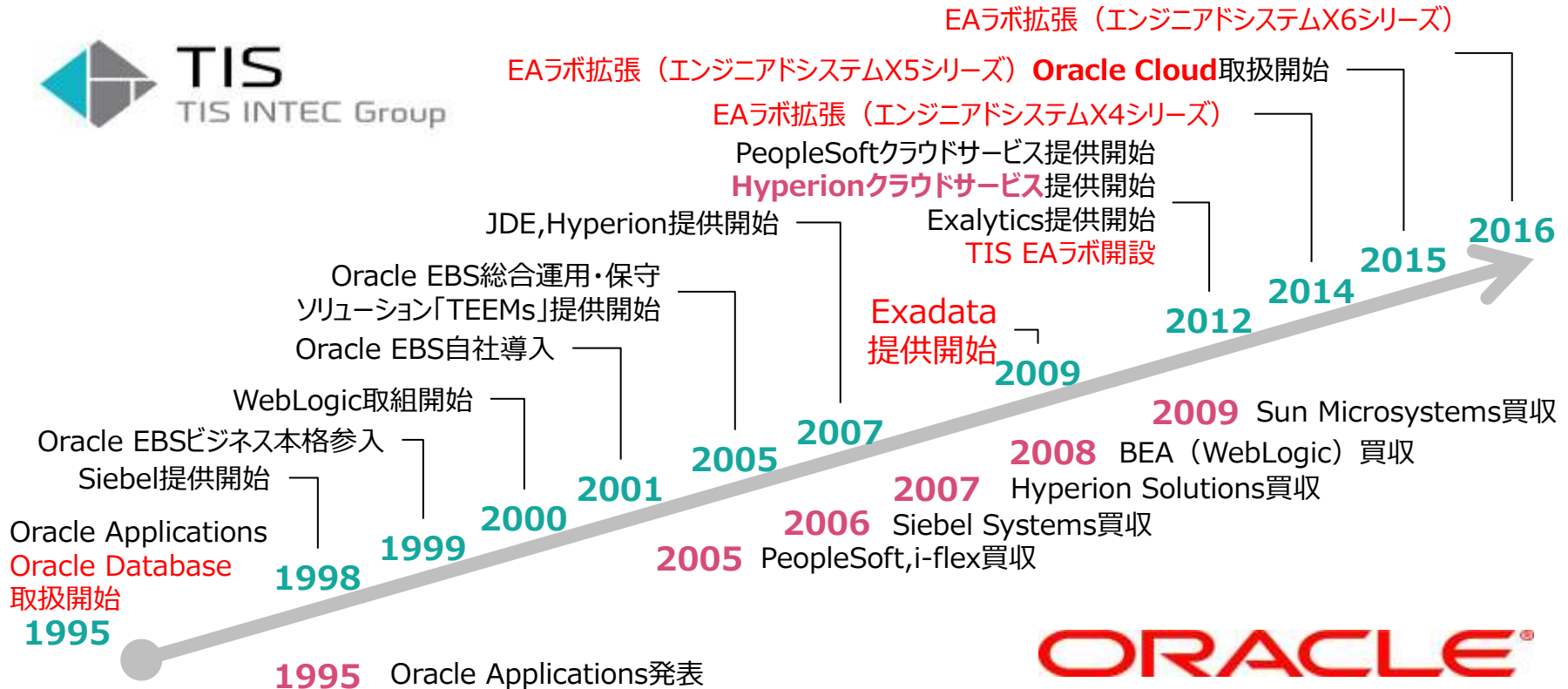
持 株 会 社 TIS株式会社





## TISのOracleビジネスの取り組み

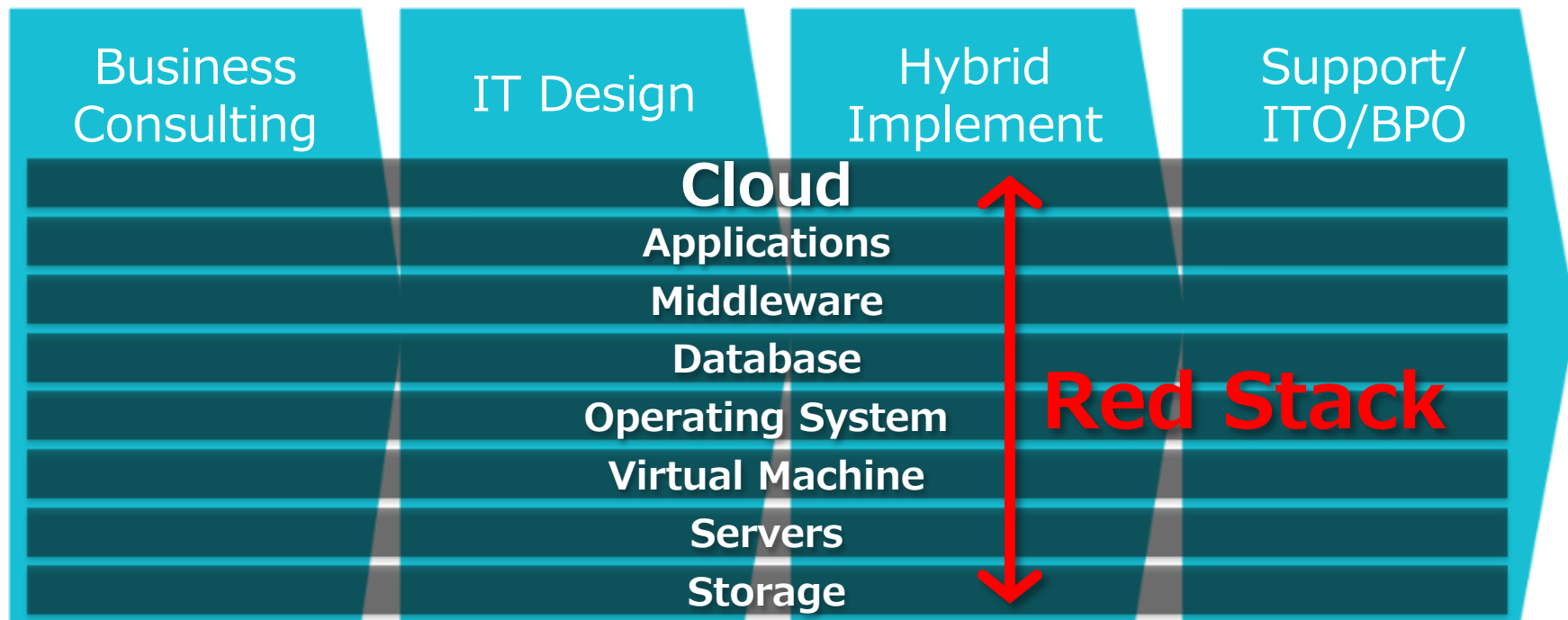
# TISのOracleビジネスの取り組み



ORACLE®

## TISのOracleビジネスの特徴

ITのライフサイクルとレイヤーを網羅するTISインテックグループと  
オラクル社との融合による包括的でシームレスな支援





## ミッションクリティカルシステムの歴史

## ミッションクリティカルなシステムの定義

組織や事業の必要性の度合い  
それが欠けると業務に致命的な影響が出るシステム

1. 金融・カード・インフラ  
などのシステム

2. 会計、人事、販売管理、  
生産管理などの業務システム



## 企業の進化と、テクノロジーの進化によって、社内システムは大きく変わってきた。

### 大規模情報 処理の時代

1970年代～

大量の計算処理  
ホスト系  
システム

### オープン化と 大規模スクラッチ

1990年代～

大規模な  
オープンシステム  
要件を確実に  
実現

### ERPの導入

2000年～

グローバル基準の  
ERP導入  
  
パッケージに業務  
をあわせる

### Cloudの時代

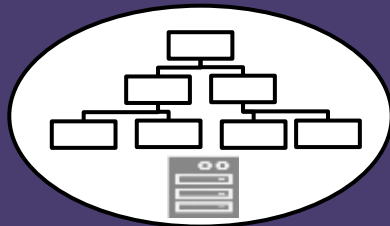
2010年～

SaaS, PaaS,  
IaaSを活用し  
簡単に、速く、  
世界中で利用す  
るシステムへ

企業の進化と、テクノロジーの進化によって、組織の構造も大きく変わってきた。

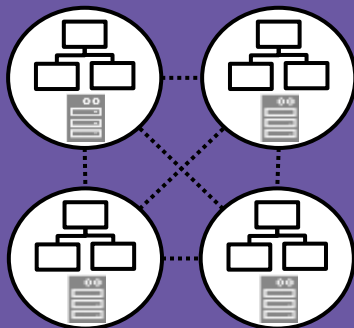
中央集権  
トップダウン型

1970年代～



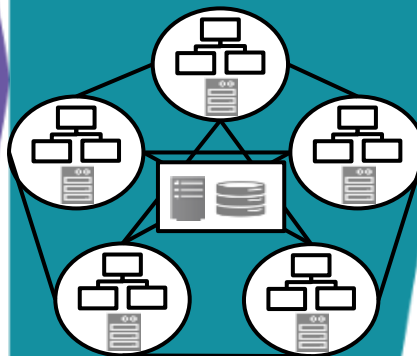
分散  
個別最適型

1990年代～



全体最適型

2000年～



自律分散型

2010年～

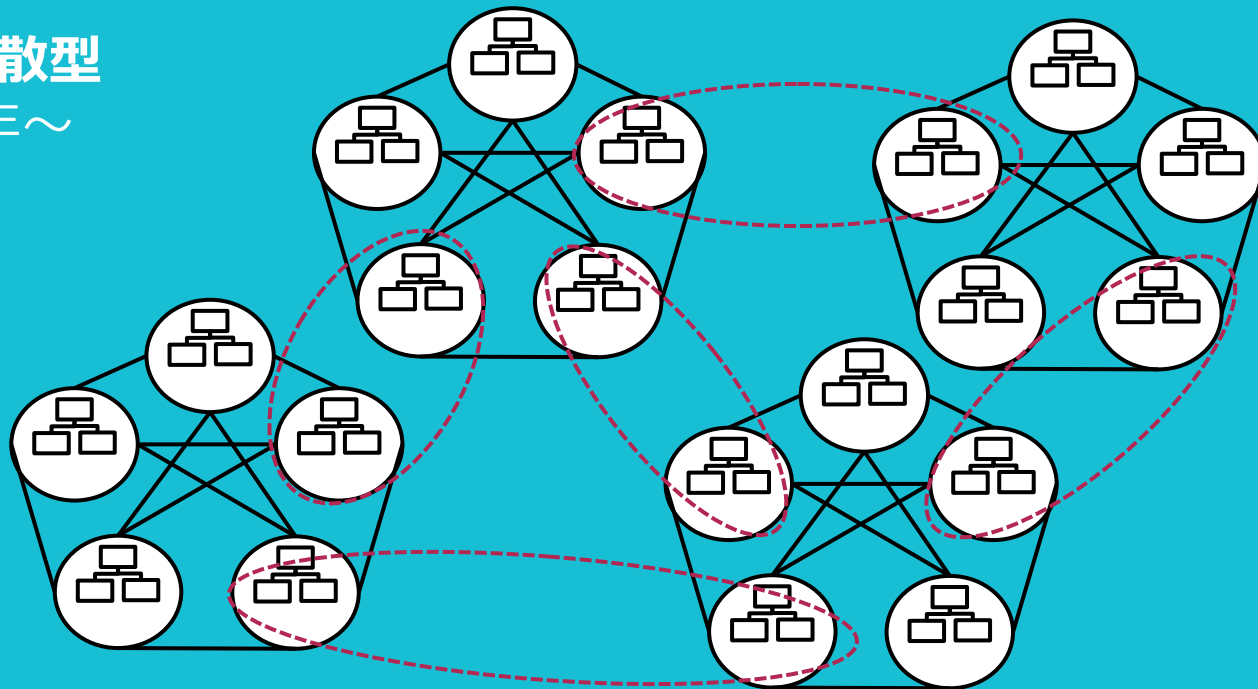
?

## Next ?



**自律分散型組織を維持するための基幹系システムが必要になってきた。**

自律分散型  
2010年～



**いつでも、どこでも、だれもが情報にアクセスし、企業活動が変化する時代へ  
常に変化し続ける企業活動にあった、基幹系業務システムが必要**



**自律分散を促す基幹系システム**



現実的な問題

## 基幹業務系システムが抱える現実的な問題

自律分散型組織を実現する基幹業務系システムを構築する上での、現実的な問題

No	課題	現実的な問題
①	基幹系システムの運用保守を効率化	基幹システム導入当時のメンバーがいない
②	基幹系システムのコスト削減	業務フロー全体を把握する人がいない
③	基幹系システムの情報の利活用	毎日の運用保守業務で時間がない
④	多様な組織、多様なメンバーへの対応	素直にシステム投資にかかるお金がない

## 基幹業務系システムが抱える現実的な解決策

自律分散型組織を実現する基幹業務系システムを構築する上での、現実的な解決策

No	課題	現実的な解決策
①	基幹系システムの運用保守を効率化	基幹系システム基盤のCloud活用
②	基幹系システムのコスト削減	基幹系システムの基盤刷新
③	基幹系システムの情報の利活用	基幹系システムへの機能追加
④	多様な組織、多様なメンバーへの対応	基幹系システムの運用保守アウトソース



**自律分散を促す基幹系業務システムを作ること理想的だが、  
現実的には様々な問題がある。現実的な解決策の中から、会社によって  
ベストな選択をできるようにする必要がある。**



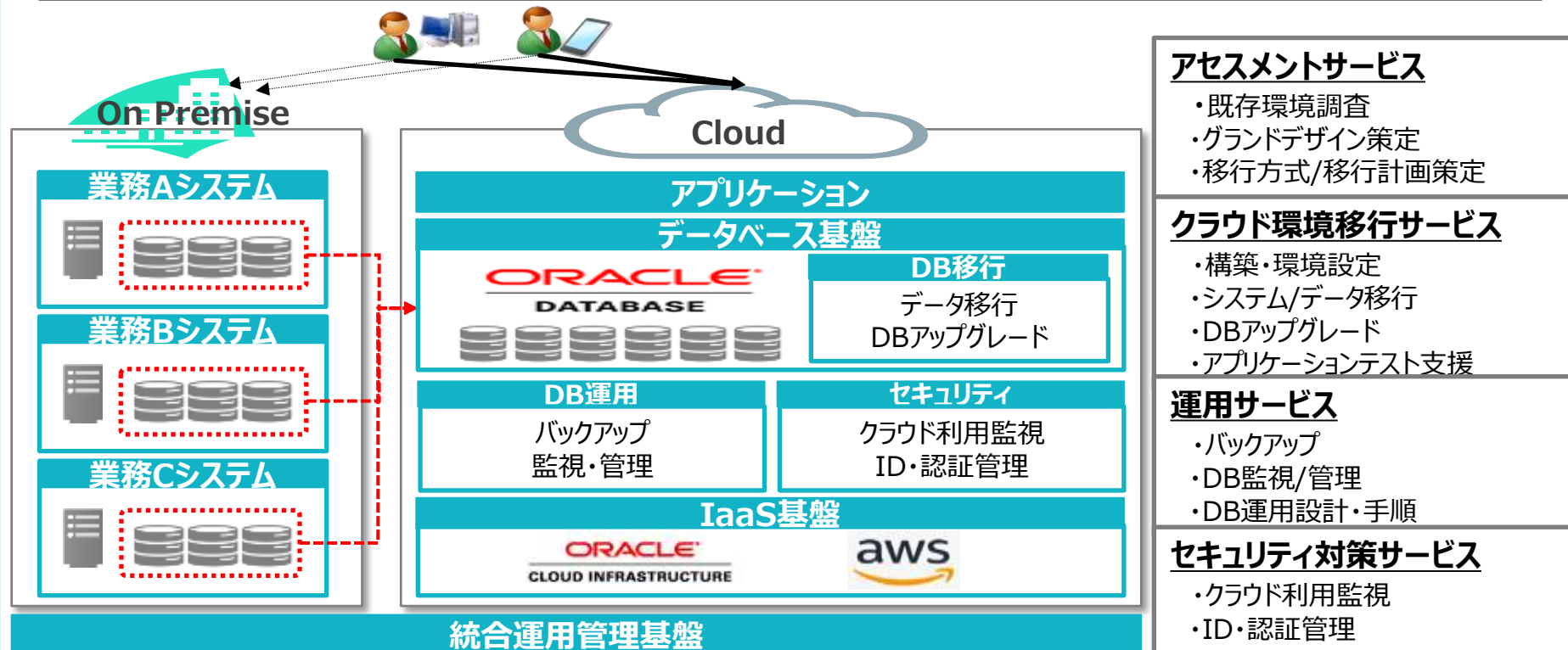
**TISのクラウドマイグレーションサービス**



TISのクラウドマイグレーション

# TISのクラウドマイグレーションサービスの全体像

OracleのベストパートナーのTISだからできる、クラウドマイグレーションサービス



# TISのクラウドマイグレーションサービスのポイント

## 1. クラウド基盤の基本方針 アセスメント

## 2. 実行計画の 策定

## 3. 構築・テスト・移行 運用サービス

### ① アセスメント サービス

### ② クラウド環境移行 サービス

### ③ 運用・監視 サービス



① 求められる  
クラウド基盤の方針  
の検討整理

② クラウド基盤の  
要件具体化/検証

③ 予算・スケ  
ジュールの策定

④ クラウド基盤へ  
の移行

⑤ クラウド基盤の  
維持および展開

システム基盤として、何の  
為に必要となるかを整理  
現状と目指す姿とのGAP  
(問題点)を整理しアプ  
ローチ・目標設定  
現状リソース確認  
DB管理・運用方法確認

サーバーリソース試算  
クラウドコスト  
SWライセンスコスト  
移行方針  
PJ計画

実行に向けたアプローチ  
の段取り、マイルストン  
設定  
予算制約、人的制約、シ  
ステム的制約、時期の制  
約などを確認

クラウド環境の設定  
構築・設定  
テスト  
移行  
運用手順書 引き継ぎ

DB監視も含めた統合監視  
サービスの提供  
DB監視・管理  
統合監視  
DB集約  
業務システムからの  
順次展開

1ヶ月目 ※

2ヶ月目 ※



## TISのハイブリッドクラウド環境

# DCANネットワークによるTIS DCとパブリッククラウドのダイレクト接続



INTEC  
TIS INTEC Group

Go Beyond

2019年7月11日  
株式会社インテック

### インテック、Oracle Cloud Infrastructure への ダイレクトアクセスを提供開始

～閉域ネットワークサービス「DCAN」により他サービスとの安全・高品質な接続が可能～

TISインテックグループの株式会社インテック（本社：富山県富山市、代表取締役社長：北岡隆之、以下インテック）は、閉域ネットワークサービス「EINS/MOW DCAN」（アインズ モウディーキャン）（以下DCAN）を介して、オラクルが提供するOracle Cloud Infrastructure へのダイレクトアクセスを提供開始したことを発表します。

■効果

①オンプレミス環境とOCIを安全に接続

インテックのデータセンター内のオンプレミス環境と、Oracle Cloud Infrastructure 上に構築した統合データベースや基幹システムをDCANによって直結することで、通信がインターネットを経由しないため、安全で高品質なデータ連携・システム連携が可能です。

②適材適所のマルチクラウド接続を実現

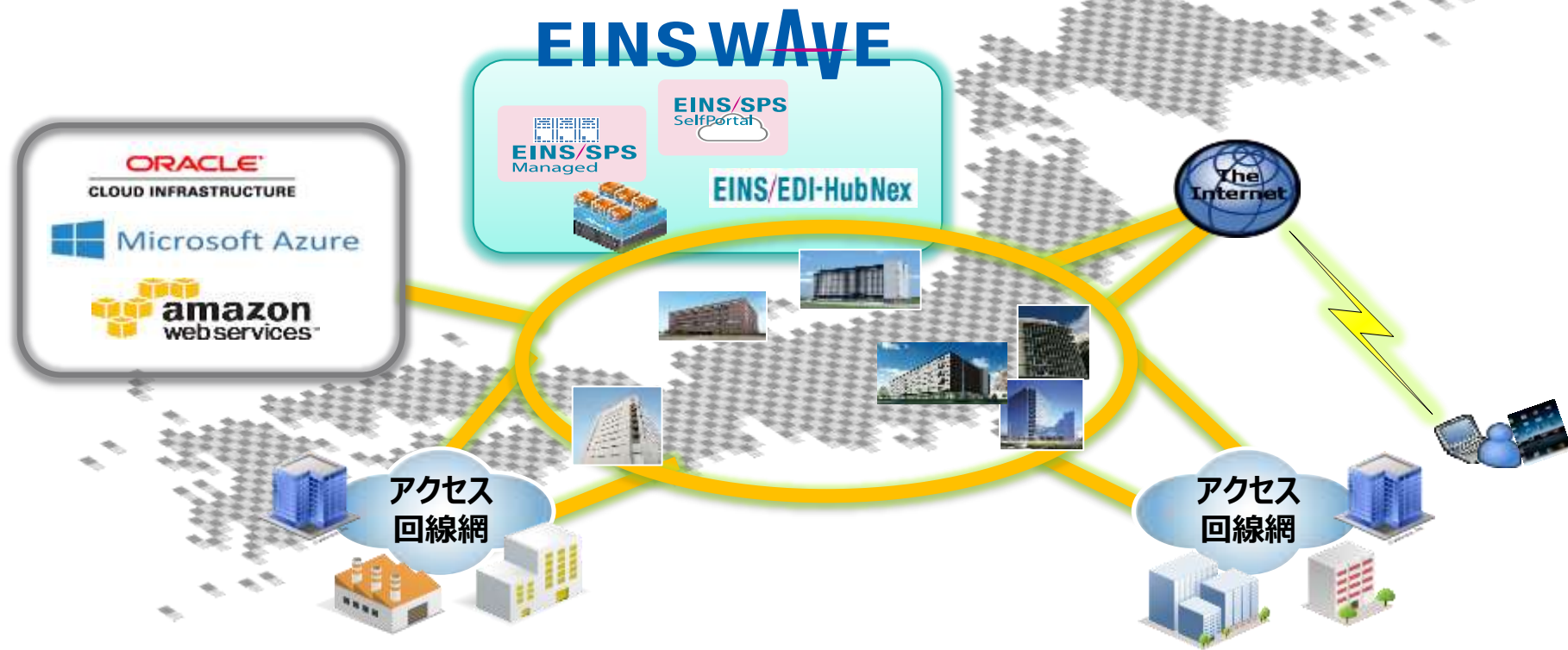
Oracle Cloud Infrastructure 上に構築した基幹システムと、AWSやMicrosoft Azureといったパブリッククラウド上の各種サービスをDCANによって接続し、それぞれのクラウドサービスが持つ特性を活用した、安全で高品質なマルチクラウド接続が可能です。



The diagram illustrates the architecture for direct access to Oracle Cloud Infrastructure (OCI). At the top, two boxes represent the target cloud environments: 'Oracle Cloud Infrastructure' (with a database icon) and 'パブリッククラウド (AWS, Azureなど)' (Public Cloud). Below these is a central box labeled 'EINS/MOW DCAN (閉域ネットワークサービス)' with the tagline '適材 適所' (Right material, right place). At the bottom is a box for the 'オンプレミス環境 (既存基幹システム、データセンター等)' (On-premise environment). Double-headed arrows connect the on-premise environment to the DCAN service, and the DCAN service to both the OCI and Public Cloud environments, indicating bidirectional communication.

# DCANネットワークによるTIS DCとパブリッククラウドのダイレクト接続

各データセンター間の相互接続、外部クラウドサービス、インターネット接続も可能です





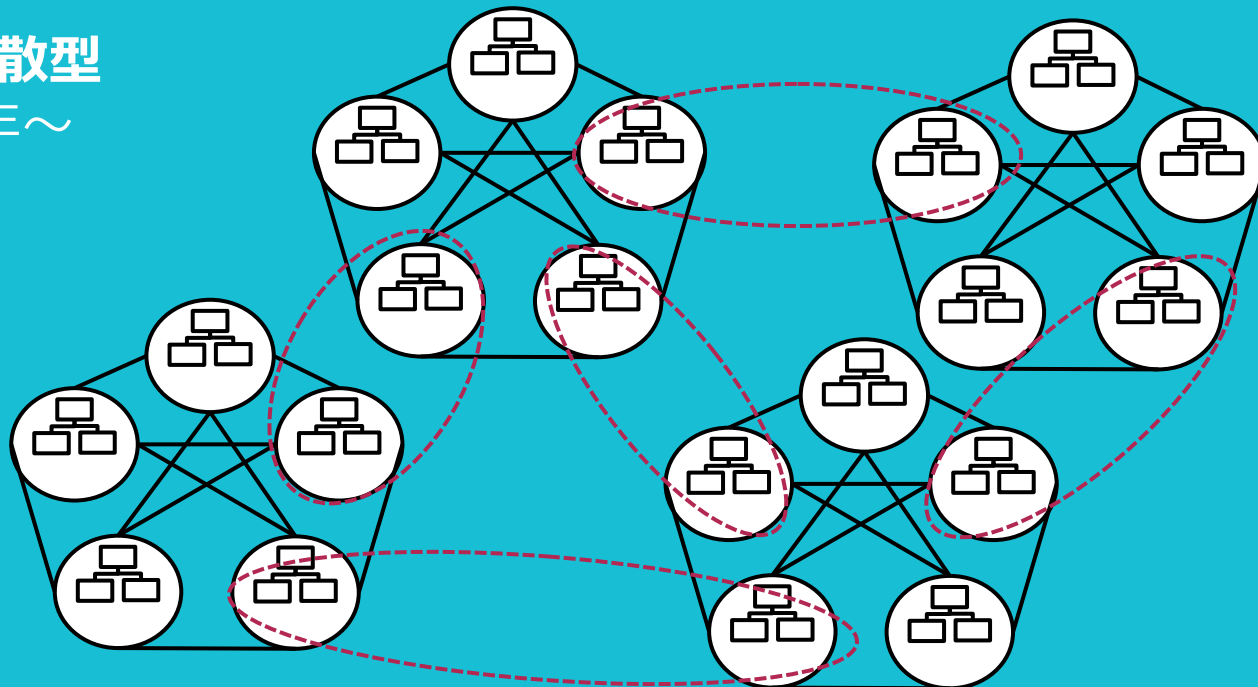
さいごに



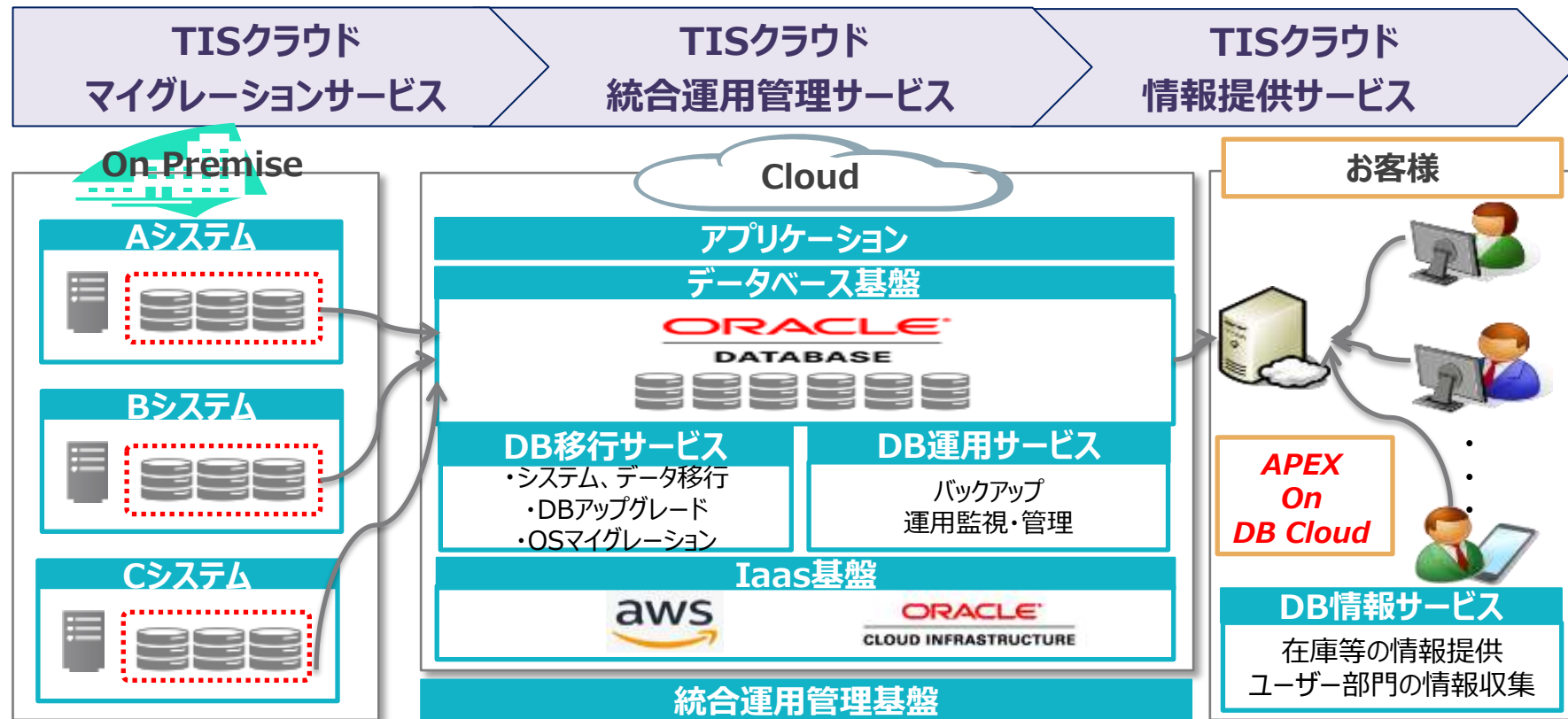


**自律分散型組織を維持するための基幹系システムが必要になってきた。**

自律分散型  
2010年～



# 現在の基幹系システムを、Cloud環境にマイグレーション



**自律分散を促す基幹系業務システムを作ることは理想的だが、  
現実的には様々な問題がある。現実的な解決策の中から、会社によって  
ベストな選択をできるようにする必要がある。**



## **TISのクラウドマイグレーションサービス**



<本資料の取り扱いに関して>

本資料は、著作権法及び不正競争防止法上の保護を受けております。資料の一部或いは全てについて、TIS株式会社から許諾を得ずに、いかなる方法においても無断で複写、複製、転記、転載、ノウハウの使用、企業秘密の開示等を行うことは禁じられております。本文記載の社名・製品名・ロゴは各社の商標または登録商標です。

本資料に関するお問い合わせ

TIS株式会社

サービス事業統括本部 エンタープライズ営業企画ユニット 経営管理サービス営業部  
野口 完司

TEL : 03-5337-4345 FAX : 03-5337-6231

E-Mail : [noguchi.kanji@tis.co.jp](mailto:noguchi.kanji@tis.co.jp)